

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390200354		
法人名	株式会社 はなみずき		
事業所名	グループホーム船穂はなみずき		
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂3194-1		
自己評価作成日	平成30年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200354-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200354-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成30年1月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム船穂はなみずきは、倉敷市船穂町と真備町の境の山の上にある小さなグループホームです。リビングからは眼下に高梁川が見えます。倉敷市内から女性6人と男性3人の計9人の認知症の高齢者が入居され生活しています。入居者が安心して暮らせることを願い13人の職員と話し合い工夫しながら支援しています。何かの御縁で地球の中のこの場所に集まった入居者の方と犬と職員共に、ここでの生活を楽しみながらずっと続きますよう願っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

認知症の人が第二の家族の様に暮らそうという「グループホーム」は、Ⅱユニット以上の複数が普通である中、このホームは、あえて「少し大きな家庭」を目指して1ユニットとして、15年経過した。何かの御縁で一緒に生活を共にしている利用者と職員は仲良く、時にはいざこざも楽しみながら心が繋がっている。ホームの理念には「それぞれの思いや生活スタイルを可能な限り尊重しながらも、心穏やかに安心して暮らせる日々を」との願いが込められていると思う。「わあっ、すてき」と思えたのは、誕生会・敬老会・忘年会等には、希望者はビールや酎ハイで乾杯が出来る事・決められたルールを守るならベランダでタバコもOK等々。細やかな心遣いで相対してくれる職員らとワイワイおしゃべりしたり、泣いたり笑ったりしていると思えば、いつの間にか自分の居室にずっと雲隠れする等、自由気ままに、利用者本人が優先されているホームである。本人・家族、そして地域からも頼りにされ続けているホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までの生活が続けられその人らしく穏やかに地域で暮らせるように支援しています	「基本的人権の保護」「家庭的な生活」「生きがいを持って生活」の3つの支援を理念に掲げ、ここが利用者にとって「終の棲家」であり、その人がその人らしく暮らせる生活を第一に考えながら、職員は日々、利用者に寄り添いながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	焼き芋や畑で収穫した野菜を届けてくれたり、こちらの行事に声掛けし交流しています。毎日訪問してくれる近所の方がいます。	日頃から野菜の差し入れ等、地域の人の手助けや応援が得られ、毎日のように訪問してくれる地域の人と一緒にドライブに出かける事もある。すぐ近くの団地から来ている職員も数名おり、利用者も町内の行事や散歩の途中で会話を交わす等、地域の人との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	船穂町のふれあいサロンに出席し地域の高齢者と交流し認知症についてお話しています。		
4	(3)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢者支援センター職員、民生委員、後見人さん、ご家族の参加で2ヶ月に1度開催しています。ホームの報告等をして意見交換をしています。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、活動報告、運営状況等話し合い、参加者と情報交換や意見交換をしている様子が議事録から、うかがえる。メンバーの顔ぶれもほぼ同じなので、忌憚のない意見が出たり、ざっくばらんな世間話をする事もある。	この会議の運営や議事録からは開始当時から確実に実績を積み上げている事がよく理解出来る。さらにステップアップさせる為には、ホームの運営やサービスの有り方について問題点を職員側から参加者に提議して意見を求め、記録し、取り組んで欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは指導監査課に尋ねたり、玉島福祉事務所とは連絡を密にとっています。	船穂高齢者支援センターの職員とは定期的に運営推進会議で顔を合わす他にも、利用者の受け入れに関する相談もあり、日頃からよく連携をしている。また、生活保護の人が数名いるので、福祉事務所と生活面や経済面等において密に連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所内研修等を行い職員とともに取り組んでいる。ただ9人の認知症入居者の安全、事故等を考え外の施錠はしています。	利用者は全員、ここを「終の棲家」として納得して来ている人ばかりなので、帰宅願望の人もなく、身体拘束を必要とする場面もない。ベッド転落のリスクのある人には安全対策としてセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止をテーマに所内研修を行いません。虐待も身体拘束、薬、言葉、経済的、等あることを学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護をテーマに所内研修を行ないます。また入居者が成年後見制度を利用しており、後見人さんのお話を聞く機会が多いです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、改定時はホームの内容やケアについて、重要事項の説明を行っています。不安事項、疑問点はお尋ねして、あれば説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族等の意見を伺っている。日常生活の中で本人の発言にも傾聴している。ご家族には毎月はなみずき通信をその人その人に合わせお渡ししている。	毎月の利用料を直接ホームに持参する家族は半数以上おり、面会時に状況報告をよく話し合っている。振り込みの家族には領収書に手紙を添えて、「はなみずき通信」も一緒に送付しているが、その他にも電話、メール、ライン等で連絡をして意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを始め、気のついたことはその都度話し合っ提案や意見は聞くようにし改善すべきところは直しています。	毎月の職員会議でケア内容や課題等を話し合い、業務日誌で日々の申し送りをして情報共有している。定年等で勤務年数の長い職員の交代があったが、ホーム長が「人材に恵まれている」というように新しい風も入ってきて、業務改善にも繋がりと、職員間のコミュニケーションもよく取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準も明確にしており、職員のやりがい等の気持ちを大切に、長く働けるように勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会を持ち、資質の向上ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船穂町内の介護保険事業所交流会に参加し質の向上の取り組みをしている。また地域の施設の運営推進会議に参加し、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当の職員を決め、不安なく過ごせるように努めている。お花の好きな人は花を摘み生け花を楽しんでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望等を伺い、関係づくりしている。家族と入居者の不安を少なくするように努めている。携帯電話を持ち込んでいる人には定期的に充電している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めている。個別の支援や必要な対応も考えている。買物に外出したい人とは定期的に外出している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い一緒に生活する者として助け合うこともある。高齢者の知識に職員が教えられる事もある。入居者と職員の年齢差が縮まっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力がある時はそうしている。当ホームは家族と縁の薄い人もいるが寂しさを感じずに生活してもらう		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問や馴染みの店へ買物に行く等の支援をしている。定期的に面会されるご家族に入居者が喜ばれる。	家族に縁の薄い人が多いと聞いているが、よく面会に来てくれる家族もいて、今日は誕生日のお祝いに花を持参している場面に出会った。ホーム長と同町内に住んでいた利用者は、近所の方が声かけをして入所に至ったと聞いている。それぞれの馴染みの関係をしっかり支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間づくりや気の合う人と話が出来るようにしている。男性入居者は利用者同士の関係の支援が難しい。一緒に歌番組を視聴したり暖かい季節は外気浴を犬とともに楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族の訪問やボランティアの申し出があり、亡くなった入居者の息子夫婦やめい御さんが訪問され懐かしがられています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でその人の人生歴も考慮し、希望、意向を把握できるように対応している。	これまでの自分の生活スタイルを崩す事なく、しっかり維持している人、それを全面的に支援している職員。ここでは自由気ままな生活が自然な形で送れている。筆談でコミュニケーションを取り合っ て意思の疎通が出来ている人もいる。職員の温かい眼差しを感じた。	自分の思いや意向についての意思表示が出来利用者が何人も見受けられるので、方法はそれぞれの人に合わせて「利用者の意見を把握する取り組み」にチャレンジしてみたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が歩んできた人生や得意な事を日常の会話の中から把握に努めている。カラオケ、読書、飲酒、ドライブ等支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活や心身の状態からその人らしい過ごし方をさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の話を聞きその人らしい暮らし、必要な介護等の計画をスタッフで検討し作成している。	ホーム独自の「ケアプラン立ち上げシート」に利用者の意向や状態等を集約し、職員間でモニタリング、カンファレンスを重ねながら計画作成担当者がプランを作成している。一人ひとりの暮らし方の希望を叶えようと「心のケア」に重点を置いたプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や介護記録等職員間で共有し、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、散髪、パーマなど希望の入居者に同行しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の人達との交流は大切にしている。地域の中でその人らしい暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診し適切な医療や助言を受けている。発熱時は医師から様子を尋ねられる。かかりつけ医で対応ができない時は家族希望の病院を紹介してもらっている。	ホームの協力医に、社長の息子さんを受診同行する事が大半である。基本的には家族に付き添いをお願いしているが、受診同行が難しい家族が多い。看護師資格のある職員が1名いるので、日常的な利用者の健康管理もしてもらえ心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な介護の中での気づきを看護師に伝え適切な受診や看護を受けられるよう支援している。入居者も看護師を信頼し相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を密にしたり関係づくりを行なっている。高齢者が多く病院との関係は必要で急変のサイン等を見極める研修会に参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去にも経験したが家族・職員とも相談しながら出来る限りの支援をしていきたいと取り組んでいる。家族の協力が大切です	開設以来、2件の看取りを経験した事はあるが、重度化になったり、医療措置が必要になった場合は他施設への移行や入院となるケースが多く、近年ではホームでの看取りを実施した例はない。本人・家族の希望があれば、関係医療機関ともよく相談しながら対応していきたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者が多いので、いつでも対応できるように日常から知識や定期的な訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加して、年2回昼と夜を想定した避難訓練を実施している。立地条件より水害は想定しておらず、地震等で被災した場合は真備町の避難所に行くようにしている。	二階建てのホームには外階段があり、実際にこの避難階段から利用者と一緒の外へ避難訓練をしている。消防法改正に伴い、5月には消防機関へ通報する火災報知設備工事をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての勉強をしたり利用者を傷つけない言葉かけをするようにしている。	ミーティングの時に利用者との接し方について話し合い、言葉遣いや不誠実な態度など気を付けるようにしている。自立した生活、利用者の希望を重視しており、それぞれの嗜好(タバコ・コーヒー等)を把握して出来る限り要望を実現させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや、どうしたいのか尋ね安全面を考え自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを安心して過ごせるよう見守り声掛けもしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やパーマ、ヘアカラーなど本人の希望されるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合わせ食べやすくしたり介助の必要な人にはさり気なく側についたり出来る人には後片付けをしてもらったりしている。	職員による毎食手作りの食事は美味しく、一緒に買い物に出かけたり、おやつバイキングやバーベキュー等の楽しみもある。誕生日・敬老会・忘年会等には手作り料理やお寿司等にビールで乾杯し利用者に喜ばれている。食後の下膳を手際よくしている利用者もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し支援している。食事量と水分量の記録を残す時もある。体重の増減のチェックも行う		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや、義歯の手入れなど利用者の力に応じ保清に気をつけ声掛け見守りを行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立していない人には排泄パターンを把握し、タイミングを見て声かけトイレ誘導している。ホワイトボードにトイレ誘導した時間を記入しています。	排泄が自立で布パンツの人も半数近くおり、2Fに3つあるトイレのドアに男性用・女性用と分かりやすく表示してあり、トイレまでの誘導手段にも工夫がしてある。夜間用にポータブルトイレを置いている人もいるが、自立支援の為に出来る限りトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じ食事量運動等予防に取り組んでいる。医師に相談し下剤の服用をやめた入居者もあります。便秘3日目には飲食物の工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調に問題がなければ、午後のゆっくりした時間を入浴タイムとし楽しんでもらっている。ただ拒否の人もおられ年齢を考慮し対応している。その人の希望する方法で入浴してもらっている。	週3回の入浴を基本にしているが、それには拘らず一人ひとりの気分や体調、ペースに合わせて柔軟に対応している。入浴拒否の強い人もいるが、声かけは毎日行ない、タイミングを見計らい支援している。シャワー浴、二人介助等、個々の状態に合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に応じて日中は自由に過ごしている。夜は眠れない日もあり話し相手やお茶を飲んだり室温調整等眠れるよう支援している。5人の入居者がテレビを持ち込まれ21時頃まで視聴されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解できない利用者もお薬はケースに入れ管理している。症状の変化等については医師看護師に相談、確認に勤めている。休薬の時はスタッフ全員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の個性趣味等に合わせカラオケ、ドライブ、散歩、図書館と喜んで過ごせるよう支援している。思い出話だけでも喜ばれる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩ける入居者がほとんどで、日々の散歩以外にも四季の行事やドライブ、外食、地域の催し等に出掛ける。ホーム近くの愛宕山公園やワイナリーは四季おりおりの景色が楽しめご近所の人も誘って行くこともあります。	希望者で近くのワイナリーまで散策して、四季折々に桜、菜の花、紅葉等を楽しみ、天気の良い日は外で即席の井戸端会議をしたり、散歩に出かけて気分転換をしている。玄関にいつでも出かけられるように、それぞれの利用者の帽子が置いてあった。受診時の行き帰りのドライブ等も楽しみの一つになっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていないが、欲しいもの必要なものはいっしょに買物に行く。お祭り等での好きなものの買物も出来る。立替えてほしいものを購入してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由につかえるように支援しているがほとんどの人はしない。携帯を持ち息子さんと頻繁に会話される人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームは狭いですが日当たりが良く、四季折々の景色を感じ居心地良く過ごす事が出来る。工作の得意なスタッフと壁飾りを作ったり折り紙や富士山の写真を貼って眺めています。	高台にあるホームのリビングからは開放的な視界が開け狭さを感じさせない。食後の一服をベランダで満喫する男性利用者の姿も見かけた。テレビや雑誌を見たり、お喋りをしたり、ゆったりと思いいいに過ごしており、休憩用にリビングの一角にベッドを置いてそれぞれの状態に対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームの中ではお好みの場所で話し相手と仲良く過ごせるようにしている。ホールで一人で過ごしたい人もいる。二階の談話室を気に入り、そこで手芸されている人もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットは備え付けですがテレビ・ラジカセ・椅子・ぬいぐるみ等お気に入りのものを持ち込みその人らしく過ごせるようにしている。片付けの苦手な人に強要しない	このホームの特長はそれぞれの生活スタイルを最大限に尊重する事であり、食事・入浴・おやつの時間以外は自室で自由気ままに過ごしている利用者も数人いて、馴染みの物を身の回りに置き、好きなテレビ番組を観たり、ラジカセで音楽を聴いて楽しんでいる。それぞれ清潔で居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は1・2階ですが元気な人は階段を昇り降りしたり自立した生活を送ってもらっている。エレベーターを利用している人もいます。		